

須賀川市教育研修センター・教育支援センターだより
「みち」 第163号
 令和7年10月15日発行



令和7年度 第2回 特別支援教育研修会

9月30日(火)、各校及びこども園、幼稚園の特別支援教育コーディネーター、併せて児童クラブ館を含めた特別教育支援員を対象に第2回特別支援教育研修会が市役所大会議室で開かれました。福島県特別支援教育センター主任指導主事 中村里永子 様を講師に、それぞれ別の会場で時間をずらしながら研修を進めました。

特別支援教育コーディネーター研修では、役割について①学校内外の関係者や関係機関との連携調整、②各学級担任への支援、③巡回相談員や専門家チームとの連携、④学校内の児童等の実態把握と情報収集の推進について、初めて担当された先生や経験のある先生方とともに協議が行われました。

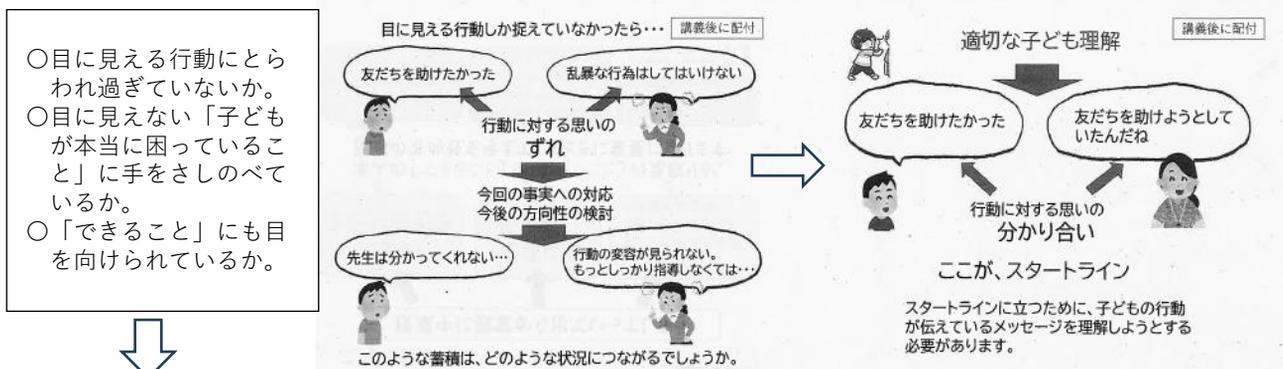
- ・学校内の関係者との連絡調整
- ・ケース会議の開催
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成
- ・外部の関係機関との連絡調整 (→管理職へのつなぎ)
- ・保護者に対する相談窓口 (→各学校の体制を確認)
- ・各学級担任からの相談状況の整理
- ・各学級担任とともに行う児童等理解と学校内での教育支援体制の検討
- ・進級時の相談・協力



各学級担任のフォロー
 担任と関係者をつなぐ ➡ **提案・確認・改善**

特別教育支援員研修では、子どもたちの行動を「どう見るか」が、子どもたちに「どうかかわるか」につながっていくことの大切さを学びました。か

福島県特別支援教育センター主任指導主事 中村里永子 氏 講義資料より



- 目に見える行動にとらわれ過ぎていないか。
- 目に見えない「子どもが本当に困っていること」に手をさしのべているか。
- 「できること」にも目を向けられているか。



- ◎支援すべき部分を**頑張らせ過ぎて**いませんか。
- ◎本人が力をつける部分を**支え過ぎて**いませんか。



2025年9月5日、文部科学省の中央教育審議会・教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領の改訂に向けた「論点整理」を公表しました。

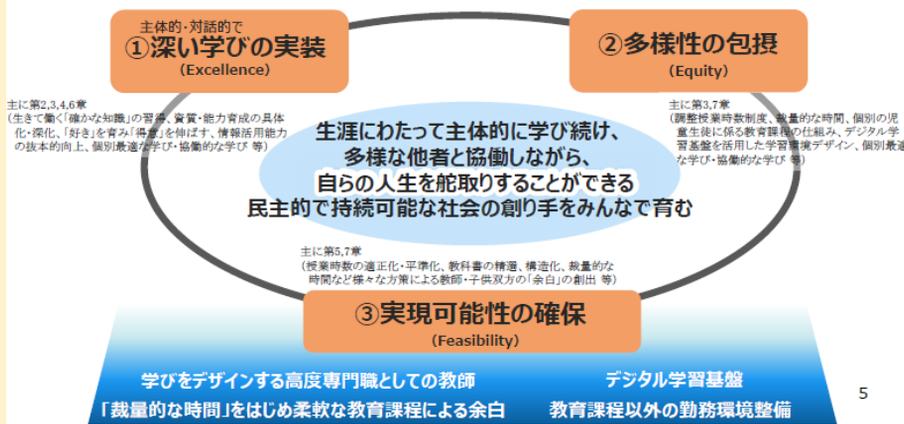
今回の整理では、「主体的・対話的で深い学び」の実装による質の高い教育の実現、多様な子供たち一人一人の可能性を引き出す多様性の包摂、そして持続可能な制度設計を図る実現可能性の確保という3つの方向性を基本に捉えているようです。今回の論点整理(素案)の目次を見ますと、第一章次期学習指導要領に向けた基本的な考え、第二章質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方、第三章多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方、第四章情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現、第五章「余白」の創出を通じた教育の質の向上の在り方、第六章豊かな学びに繋がる学習評価の在り方、第七章その他諮問で提起された事項の在り方、第八章今後の検討スケジュールや検討の在り方等が上げられています。

補足イメージ①-③

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化



文部科学省ホームページより

次期学習指導要領

実施見込みの年

小学校 2030年

中学校 2031年

高等学校 2032年

特別支援学校

(小学部、中学部、高等部)

各学校に準じて

子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きいとされています。

10・11月の主な研修予定

10月

22日(水)[県]特別支援学級新任担当教員研修会
(地区別:県中)

23日(木)[県]小・中 中堅教諭等資質向上研修

29日(水)[県]小・中新規採用養護教諭研修

11月

5日(水)[県]養護教諭5年経験者研修~7日

5日(水)[県]学校安全指導者養成研修会

10日(月)[県]小・中 初任者研修 地区別研修A

11日(火)[県]教育相談コーディネーター研修会

教育研修センター・教育支援センター前の植栽があるところに、種から発芽して実ったスイカが、季節外れですが旬を迎えています。すこやか教室に来ている子供たちと収穫したいと思います。



教師のための読書案内

佐藤正彦 プチ哲学 La Petite Philosophie 文と絵
中央公論新社 2004年・2017年

この本は、筆者が日常生活の中でさまざまな現象に出会った小さな事を、ちょっと深く考えることでその裏にいろいろな興味深いことがみえてくる、筆者曰く「プチ哲学」の本です。「哲学」といっても難しいものではなく、癒される見開きのイラストに短い解説があり、思わず「う〜ん」とうなずいてしまいます。

子どもたちを見たとき、ちょっと深く行動要因を探ってみると「そうかもしれない」「そうなんだ」といった先生の気づきが、子どもたちを前向きにさせるきっかけとなるかもしれません。